

# 令和7年度第1回板橋グリーンカレッジ運営協議会会議録

令和7年8月1日（金）  
グリーンカレッジホール

【開 会】15時00分

<p>(事務局)</p>	<p>本日はお忙しい中お集まりいただきどうもありがとうございます。 ただいまより令和7年度第1回板橋グリーンカレッジ運営協議会を開催いたします。 どうぞよろしく申し上げます。 本協議会は、板橋グリーンカレッジ大学校及び大学院事業の円滑な運営を図ることを目的に開催するものでございます。会議録を作成する関係で議事の内容を録音させていただきますのでどうぞよろしくお願いたします。 それでは、議題に入る前に資料の確認をさせていただければと思います。 資料1、板橋グリーンカレッジ運営協議会委員委嘱名簿。 資料2-1、令和6年度板橋グリーンカレッジの実施結果について。 資料2-2、令和6年度板橋グリーンカレッジ公開講座チラシ。 資料3、令和7年度板橋グリーンカレッジの受講状況について。 資料4、令和7年度後期板橋グリーンカレッジ講義概要。 資料5、板橋グリーンカレッジのDX推進について。 資料6、板橋グリーンカレッジ大学院カリキュラム案の検討状況について。 資料7、令和8年度板橋グリーンカレッジ大学校カリキュラム案。 参考1、板橋グリーンカレッジ運営要項。 参考2、令和7年度、板橋グリーンカレッジ大学校、大学院実施要領。 参考3、板橋グリーンカレッジ運営協議会運営要綱。 以上でございます。 それでは、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。 資料1「板橋グリーンカレッジ運営協議会委員委嘱名簿」をご覧ください。 本協議会は、運営協議会運営要綱第3条に基づきまして、区内の大学関係者、学識経験者、区民の代表、板橋グリーンカレッジOB会の代表者、区職員の合計8名で構成しております。 ～委員紹介～ 以上でございます。どうぞよろしくお願いたします。 それでは早速議事に移らせていただきます。議事進行につきましては、議長どうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>(議長)</p>	<p>それでは早速議事に移ります。議事進行については私がします。 初めに本協議会運営要綱第6条第2項により、定足数は半数以上となっておりますが、本日は7名の委員の出席がございますので有効に成立していることを申し伝えさせていただきます。 また、本日1名の方が傍聴されています。併せてご報告いたします。 それでは、お手元に配付しております次第に従って議事を進めて参ります。</p>

	<p>まず資料2-1「令和6年度板橋グリーンカレッジの実施結果について」報告を事務局よりお願いします。</p> <p>令和6年度板橋グリーンカレッジの実施結果についてご報告をさせていただきます。まず最初に資料2-1をご覧ください。まず項番1「令和6年度の実施状況」でございますが、1年生は令和6年度の受講者数が200名で、177名の方が今年度2年生へ進学となっております。</p> <p>また、1年生につきましては令和6年度より年齢制限を撤廃しており、10代から80代の方に受講いただいているところでございます。受講者年代内訳につきましては右側の記載のとおりとなっております。</p> <p>また、専門課程については令和5年度教養課程からの進学者が132名で、126名の方がご卒業されております。</p> <p>続いて2ページ目をご覧ください。</p> <p>大学院は受講者が57名で、53名の方がご卒業されています。令和6年度につきましては入学式卒業式ともに実施することができ、無事にすべての課程を終えることができました。</p> <p>続きまして項番2「板橋グリーンカレッジ公開講座」についてご報告させていただきます。令和6年度から全世代を対象といたしまして「板橋グリーンカレッジ公開講座」を実施しております。令和6年度はテレビ朝日広報局の久慈省平氏をお招きいたしまして、「ニュース番組の舞台裏」をテーマに講演をいただいたところでございます。申込者数は86名で実際受講者数は62名となっております。なお、申し込み者86名のうち令和6年度グリーンカレッジ受講者は36名、受講生以外の方は50名でございました。</p> <p>また申込者の年代につきましては30代から50代の方が15名、60代以上の方が71名いらっしゃいました。</p> <p>講義につきましては受講者から大変ご好評いただき、講義が終わった後も先生のところに質問者の列ができ、皆様大変熱心に受講されており、非常にいい講演を実施させていただきました。</p> <p>資料2-2でございますが、案内のチラシにつきましては説明を割愛させていただきます。資料2の説明は以上になります。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。資料2の説明が終わりました。委員の方からご質問、ご意見のある方はご発言ください。</p>
(議長)	<p>公開講座が大変好評だったというお話ですが具体的にどのような声があったか、具体的に分ければ教えていただけますか。</p>
(委員)	<p>抜粋していただいて構わないので、好評だったということなのでどのような声が上がったのかお聞かせいただければと思います。</p>
(事務局)	<p>受講生の方からアンケートを徴収させていただいて、いろいろな感想をいただいている中で、「人を引きつけるような話し方で、最後まで楽しんで受講できた」というお声をいただいたりだとか、受講生の方の中で、ある民間企業の広報部に在籍したりしていた方がいらっしゃったようで、「テレビ朝日さんには何度も伺って一緒に楽しく仕事をしたことを思い出した」というようなお話だとか、「今後のニュースの見方が変わりそうだ」というようなご意見を具体的にいただいているところです。</p>

(委員)	好評なお声っていうのはわかるんですけど、そのような声がありましたということで、資料に添付していただけるとわかりやすかったと思います。
(議長)	それでは後からまた前に戻ってもいいので、先に進めます。 続きまして資料3「令和7年度板橋グリーンカレッジの受講状況について」の説明を事務局からお願いします。
(事務局)	それでは資料3をご覧くださいと思います。 令和7年度板橋グリーンカレッジ受講状況についてご報告をさせていただきたいと思います。受講状況については、令和3年度からの推移を掲載させていただいております。受講生の募集については例年1月中旬から行っておりまして、今年度の人数は、募集時点のものとなっております。また、まず項番1「板橋グリーンカレッジ大学校（1年生）」をご覧くださいと思います。令和5年度までは60歳以上の方を対象としておりましたが、令和6年度からは年齢要件を撤廃して募集をしているところでございます。定員300名のところ、217名の方にご応募いただきました。 年代内訳につきましては右側の表をご覧くださいと思います。20代から80代まで幅広い世代の方にご応募いただいた結果となっております。なお60歳未満の方は合計39名ということで全体の約18%となっております。 続きまして項番2「板橋グリーンカレッジ大学校（2年生）」をご覧くださいと思います。 定員は聴講生を含めまして400名となっております。1年生からの進学者が177名、聴講生が184名となっております。 年代内訳につきましては右側の表をご覧くださいと思います。20代から90代まで幅広い世代の方にご応募いただいた結果となりました。なお、進学者のうち、60歳未満の方は35名で約20%となっております。 続きまして項番3「板橋グリーンカレッジ大学院」をご覧ください。 大学院は定員が各コース30名で計90名、今年度の入学決定者数は50名となっております。コース別の入学者数につきましては文化文学コースが26名、社会生活コースが14名、健康福祉コースが10名となっております。 なお、受講生の募集にあたっては、大学校、大学院ともに、広報いたばし、ホームページ、SNSへの掲載、受講生へのチラシの配布などを行ったところでございます。 資料3の説明については以上となります。
(議長)	ありがとうございます。資料3の説明が終わりました。ご意見、ご質問のある方はご発言ください。先ほどの繰り返しだけど先に行ってまた後でここについて戻ってもいいですので、先に進めます。
(事務局)	続きまして資料4「令和7年度後期板橋グリーンカレッジ講義概要」の説明を事務局からお願いします。 それでは資料4をお手元にご用意ください。 令和7年度後期のカリキュラムについてご説明をさせていただければと思います。 まず1年生からご説明させていただきたいと思います。1ページ目をご覧ください。令和6年度から新しく科目選択制を導入いたしまして年間23講座を実施しております。 受講生は、前期は11講座から9講座、後期は12講座から9講座を選択し、年間18講座

を受講することができるという形になっております。  
今年度から新しく取り入れた科目として、3 ページの講座 10 科学「生命と地球の共進化」、講座 11 音楽「身近な異文化『アイヌの音楽』を体感してみよう」がございます。音楽の講座につきましては、4階のホールにて、講師の東京音楽大学千葉先生によります、民族楽器「トンコリ」や歌の実演を交えた講義を予定しているところでございます。続きまして2年生の講義概要についてご説明をさせていただきます。4 ページ目をご覧ください。2年生につきましては、今年度から科目選択制を導入しております年間18講座を実施しております。受講生は、前期後期ともに、9講座の中で3講座を選択いたしまして年間6講座を受講することができます。

2年生では、生涯学習を促進する多種多様なテーマについてより専門的な内容を学ぶため、各講座について3回シリーズの連続講座となっております。

次の5 ページ目でございます、講座番号5「健康」のなかむらクリニック院長 中村直也先生、講座番号6「農業」の東洋大学 竹田麻里先生、講座番号8「統計学」のNPO法人環境防災総合政策研究機構 田代誠司先生については初めてご登壇いただきます。

なお、6 ページ目の講座番号8「統計学」の日時に誤りがございまして、この場をお借りしまして訂正をさせていただければと思います。2回目の日程が1月28日（日曜日）となっておりますが、正しくは1月28日（水曜日）となっております。ご訂正の方よろしくお願いいたします。

大学院につきましては昨年度の協議会におきまして、1年間の日程はすでに決定しております。後期日程においては3コースとも卒業研究発表会に向けて、個人研究を中心に進めていくという内容となっております。

資料4は以上とさせていただきます。

(議長)

ありがとうございます。

資料4の説明が終わりました。

ご意見、ご質問のある方は、ご発言ください。

では私からよろしいですか。先ほどお話聞いていて中村クリニックっていうのはこの近くの病院でして、私のかかりつけなんですけども、私が個人的に「グリーンカレッジというものがあるんですけどどうですか」と言ったら快く、それも3回講義をやってくれるということで、地域に根差している人が出てくるといいところもあると思います。

他に何かありますでしょうか。

続きまして、資料5「板橋グリーンカレッジのDX推進について」の説明を事務局からお願いします。

(事務局)

それでは次に資料5をお手元にご用意ください。

昨年12月に開催されました、令和6年度第2回グリーンカレッジ運営協議会でご報告させていただきました通り、板橋グリーンカレッジの事業は多世代化に伴いまして「カリキュラムの再編成」「CI戦略によるブランド化」「DXによる環境整備」の3つを柱といたしまして、「時代に適した学び」の実現に向けて様々な改革を進めております。

本日は、令和7年度、8年度の実施を予定しておりますDX推進策についてご報告をさせていただきます。

1点目といたしましては「卒業記念文集及び卒業研究レポート集の電子化」についてで

	<p>す。</p> <p>昨年度までは、大学校2年生及び大学院の受講生から提出された卒業レポートを事務局で取りまとめまして、卒業記念文集及び卒業研究レポート集として、卒業生へ冊子として配布をさせていただいておりました。今年度も文集及びレポート集の作成は行わせていただくところでございますがDX推進に伴うペーパーレスの観点から、冊子の配布ではなくてデータでの提供に変更させていただきたいと考えております。本件につきましては年度初めに、受講生に周知させていただいておりました様々な声をいただいているところでございます。委員の皆様におかれましては様々なお考えあることと存じますが、区全体のDX推進策というところでご理解をいただきますようよろしくお願いいたしますと思います。</p> <p>続きまして2点目でございます。「板橋グリーンカレッジ専用ポータルサイトの導入に伴う変更について」でございます。</p> <p>令和8年度受講生の履修登録より専用ポータルサイトの導入をさせていただきます。多世代化した受講生のニーズに応えていくためのポータルサイトの導入に伴いまして、受講料の改定も同時に考えております。具体的には令和7年度までは年間5000円でしたが、令和8年度については年間10000円に改定をさせていただきたいと思っております。ポータルサイト導入に伴いまして、サイト上で履修登録や出欠登録が行えるようになるほか、講座のスケジュールや各種連絡を一元管理できるようになります。併せて、講義のアーカイブ配信も導入を予定しており、受講生の利便性の向上が期待されております。なお、受講料につきましては「板橋グリーンカレッジ大学校・大学院実施要領」で規定されているため、要領の改定を予定しておりますことを申し添えさせていただきます。資料5の説明は以上とさせていただきます。</p>
(議長)	資料5の説明が終わりました。ご意見、ご質問のある方。
(委員)	昨年度申し込みとか講座の出欠をスマホでするといような話があったと思いますけど、そこら辺はもう進んでおりますか。
(事務局)	その部分については今年度の10月ぐらいから導入できるように今準備を進めさせていただいております。
	既に事業者はプロポーザルで決定しており、その事業者に、現在板橋の仕様に沿ったカスタマイズを行っていただいております。
(委員)	わかりました。ありがとうございます
(事務局)	今年度の10月から委託業者と契約しまして、準備期間ということで、内部でシステムに問題がないか検討させていただきまして、実際に受講者がすべての機能、例えば出欠管理ですとか、今検討しているアーカイブ配信ですとかの機能を令和8年度から開始出来ればと考えているところでございます。
(委員)	その辺に関して、高齢者の方のスマホの何か操作云々とかって専門の講座を設けましようという話が昨年度あったと思うんですけどその辺はどうでしょうか。
(事務局)	説明は丁寧にさせていただくというところで変わりはないんですけども、そもそもポータルサイト自体が簡単なシンプルなつくりのもので考えておりますので、そこまで詳しく、手取り足取り受講生一人一人に説明しなくてもいいようなサイトを作っているところでございます。

(委員)	スマホを持ってない高齢者の方とかがいらっしやる時には貸し出すとか、そんな話もあったと思うんですけども、そういう方についての対応はどうか。
(事務局)	持ってない方に関しましては、従来通り紙ベースでの出欠の確認だとか、履修の登録でしたら紙でも行いますので、紙ベースでそこは別途対応というところがございます。
(委員)	わかりました。ありがとうございます。
(議長)	他に何か。
(委員)	DX 推進は時代の流れに沿っていますし、受講者の利便性という面では良いと思いますが、気になるのが年間 5000 円の受講料が 10000 円、倍になるというところで。今、いろんな意味で生活が苦しい状況が続く中で倍になるということで、学習の妨げにならないのかという不安があります。 それと、分かれば教えていただきたいんですけども、これはどういう算定の根拠で 10000 円になったのでしょうか。 以上の 2 点です。1 つは受講者の減少に繋がるのではないかと、また受講者によっては、学習継続に影響が出るのではないかとという点と、もう 1 点は、10000 円となった根拠等について教えていただければと思います。
(事務局)	合わせてのお答えになってしまうかもしれないんですが、すべてのグリーンカレッジにかかる経費というところを算定させていただいております。 それについて、受講者の定員で割り返したところ、大体今 1 人あたり 13000 円程度の経費がかかっておりました。今年度も、13000 円よりも若干少ないところではありますが経費がかかっておりますので、10000 円の負担については、経費の算定というところと、受益者負担という板橋区の観点からいくとある程度適正というところで、区の財政当局とも交渉し、賛同を得られたところでございます。 また、受講者の減少については、金額を設定させていただいた上で著しく減ってるということであればその時点でまた再度区の財政当局と交渉した上で経費についてはまた検討して参りたいと思っております。
(議長)	他に何か。
(委員)	資料が行ったり来たりしてしまって申し訳ないのですが、資料 2-1 で、多世代というお話もあったと思うんですけども、何となく感覚で全然大丈夫なんですけど、今回は申し込み者数の 60 代未満の割合が大体 2 割ぐらいっていうお話があったかと思うんですけど、どちらかというとは後は増やしていきたい感じなのか、それとも 2 割でも良いと思っていらっしゃるのか、お考えがあればお聞きしたいなと思います。理由としましては、先ほどお話にも上がったように、10000 円になると比較的若い世代の人の受講が避けられてしまわないかなというような気もありましたので、お伺いさせていただいた次第です。
(事務局)	現在、若干まだ定員に余裕があるという状況でございますので、出来れば若い方も含めて多くの方に受講いただきたいなと思っております。2 割というところで、事務局としてはもう少し若い世代も増やしていきたいなという意向がございます。 ですので、広報なんかについては工夫をさせていただきながら、もうちょっと若い世代に刺さるというか、見ていただけるような募集の仕方を、来年度についてまた更に工夫をして参りたいと考えております。

	<p>また、受講料については、委員がおっしゃる通り若い世代が減少する状況がみられるようであれば受講料についても検討して参りたいと思っております。</p>
(委員)	<p>ありがとうございます。</p>
(委員)	<p>やっぱり丁寧な説明が必要かと思います。</p>
	<p>金額を設定したなら、上げたり下げたりとかっていうことではなくて、改定後 10000 円ってことであれば、やはり丁寧な説明をしていただいで納得していただくことが必要だと思います。</p>
	<p>厳しいから下げましょうとか、厳しくないから上げましょうとかブレるのではなくて、この金額でいくとなったら、丁寧な説明をしていただければ、皆さん分かってくださると思うんですよね。だからその説明をしていただきたいなと思います。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。募集の際にもより丁寧な説明を心がけていきたいと思っております。</p>
(議長)	<p>他に何か。</p>
(委員)	<p>受講料の改定のところは、私もちょっと気になっておまして、関連してなんですけれども、資料5とは直接関係ないかもしれないのですが、今年の会議のときに、連帯感のためにユニフォームやトートバッグを作るというお話があったかのように思うのですが、そちらに関してはどのような進捗になっているのかお聞かせいただければと思います。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>共通のロゴであるとかグッズというところですが、今年度から実施をさせていただいているところがございます。トートバッグについてですね、受講者の方に今お配りをさせていただいたというところがございます。またスタッフの方も統一的なユニフォームをご用意させていただいております。</p> <p>こちらについては来年も継続して受講生の方にお配りをさせていただきながら進めていきたいと思っております。</p>
(委員)	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>そちらを配布するにあたってこういった受講料の改定が必要になっている状況という認識でよろしいでしょうか。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。言葉足らずのところがありました。区施設については全体の使用料改定をしまして、今年度から全ての施設で値上げをさせていただいたところがございます。</p>
	<p>ご存じのとおり工事費や改修費などもそうなんです。光熱費等も含めてすべての経費が値上がっています。今年度についてはそれでも 5000 円を継続させていただいたところですが、全体の経費が上がっていく中で、区の負担の部分が上がっているところがございますので受講生の方にその部分を重ねてご負担をいただくというところで、値上げをさせていただくというところがございます。</p>
(委員)	<p>ありがとうございました。</p>
(委員)	<p>確認ですが、令和8年度からの改定です。1年生から2年生になる方も、令和8年度は10000円ということですね。令和8年度新たに入学する1年生から値上げということはあり得るかもしれませんが、途中からの値上げは、大きな負担になるかもしれません。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>倍というのは、どういう算出計算によるのでしょうか。例えば、8000円ということは考えなかったのでしょうか。DX化は学習者の利便性を向上させる効果は期待されますが、あまり上げ幅が大きいというのは学習に大きく影響するのではないのでしょうか。</p> <p>むしろ安価な料金でたくさんの方が来てくれた方が、採算とれたりもする場合もあると思います。もしまだ検討の余地があれば、少しでも安くできるよう考えていただけると良いと思います</p> <p>ありがとうございます。出席の部分もそうなんですが、講義に出席できなかった場合、アーカイブで配信を見ていただけるようになるということもございますので、今までは資料だけだったのが補講のような形で講義を確認できるということも含めて、来年度値上げをさせていただきます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>確かに金額的なところでいろんな議論があるかと思いますが、すべての算定をした中で区の財政当局ともいろいろと交渉させていただいた上でこの金額で承認を得られたため、来年度はこの金額で進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>大学によっては、アンケートなどで運営に対し学生の意見を聞くような場面もあります。今回、現在受講されている方の意見を伺ったとかそういったところはありますか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>ありがとうございます、受講生の方のご意見については聴取をせずに決めていったというところはあります。そこについてはなかなか難しいところで、意見を聞くと区の方針を決定しづらいというところもありますし、またグリーンカレッジだけでなく全体の経費もすべて上がっているところで1年間はなんとか維持をさせていただいたというか、努力をさせていただいたところがございますが、この機会に通常ベースでの提案をさせていただくというところで、色んなご意見があると思いますので、丁寧に説明させていただければと思っております。</p>
<p>(議長)</p>	<p>実は、プレミーティングの際に同じことを言いました。5000円から10000円は高いと。先ほど課長おっしゃっていましたが、理解を得られたと言っていたんだけど、その理解っていうのは区の内部の理解であって、ここで反対というか、もう少し検討して欲しいということ、協議会で決議ができれば、その検討はしていただけるのでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>そういった意味で区の財政当局や経営改革の部署とも交渉させていただいたところがございます、その中でDXということで補講的なところも含めて整備を来年度からするというところもございますので、改めて金額の減額というのは難しいというのが正直なところです。</p>
<p>(議長)</p>	<p>電子化するとむしろお金がかからないからDX化しようということがあると思うんだけど、やっぱりそこにちょっと疑問が残る。</p> <p>あと委員がおっしゃっていたように、僕実はスマホ持ってないんですが、60代～80代が非常に多くて、事務局が仰っていたが紙媒体を残すというのは大事なので、そこはしっかりやっていってほしい。</p> <p>卒業文集の電子化についても、時代の流れなので仕方ないと思うけれども、全てペーパーレスではなく、一冊くらいはどこかに残しておいてほしい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>卒業文集についてですが、受講生の方については電子化という形でお渡しをさせていただく予定でございます。</p>

	紙媒体というところでございますが、今現在、図書館とかで閲覧が可能になっておりますが、そこについては電子化が難しいというところがありますので、印刷し、ファイルにとじたものを各図書館等では閲覧ができるような形を残していこうかなと思っているところでございます。
(委員)	どちらにしても、受講生のためのグリーンカレッジなので、丁寧な説明は必要かと思うんですよね。5000円が10000円になるという、丁寧な説明をしていただければ皆さんそれでもやっぱり受講したいっていう方もいると思います。とにかく丁寧な説明をしていただければ、それはわかってくださる方はわかってくれるので、本当に丁寧な説明をしてください。私の願うところはそれだけです。
(議長)	これまでの受講料経過というか、今まで値上げしてきたのか、或いはずっと5000円だったものを今回10000円にしたのか。もし記録があれば。
(事務局)	受講料については、確認できる範囲では5000円ということですずっと進めさせていただいたところでございました。 5000円という形でずっと維持できたというところについてはですね、実はもうコロナのあたりで、いろんなものが値上がってくるというような状況がありましたが、コロナというところで価格については据え置きという形をとらせていただいております。 コロナ後、今度は燃料費が大きく値上がってきまして。工事費や修繕費についても非常に大きく値上がっているという現状がございました。 そういった中で、5000円という価格はかなり安価でご提供させていただいていたというところがございます、大きく原価を大きく割り込んでずっと進めさせていただいたところでございます、今回ですね、当然原価分をいただくというところはございませんが、13000円ほど経費がかかっているという算定を行い、今回そこに近い金額でお願いしたいというところで進めさせていただいたというところでございました。
(議長)	僕たちは、やはり受講生の側に立つ必要もあるし、区の方の立場につく必要があると思います。僕はこのグリーンカレッジで4回ほど続けて講師をしました。ここは非常に講師料が安いんですね。ここは値上げもしないでしょうし、据え置きだと思うんだけど、受講料は上げるけれども、講師料は上げていない。そういうことももしかしたら1つの値上げの理由になるかもしれない。
(事務局)	これでまた講師料を上げるとかっていうとまたこの中に入っているんじゃないかといわれることもあると思うので、こういうことも一つの説明になるかと思います。 講師料につきましても、元々が板橋区の時間あたりの単価については非常に安価でお願いさせていただいており、非常に心苦しいところがございますが、2年位前に若干お気持ち程度値上げをさせていただいております。 今後もその部分については講師の方に本当にご協力をいただいている中で心苦しい限りでございますが、そこも含めてですね、今後見直しも含めて、考えていければなと思っております。今現在の金額については非常に低い金額でやらせていただいて、また来年度から少し定員も増やせていけたらなと思っておりますので定員の動向も踏まえて今後財政当局と交渉して参りたいと思っております。
(委員)	参考資料2、3ですけれども参考資料3は、運営協議会の運営要綱ということで、協議事項に、年間カリキュラム、講師選定に関することとあります。

<p>(事務局)</p>	<p>協議事項ということで、カリキュラムについて承認をする、或いは講師選定について承認するのか、それとも意見を述べるだけなのかがあまり明確ではありません。</p> <p>また、参考資料2の大学・大学院実施要領ですが、これは担当部長決定となっているので、これ自体は協議に関係なく部長決裁で決められると理解しています。さらに、この要領自体の改正にあたっての文言が特にありません。</p> <p>今後でいいと思いますが、例えば「改正にあたっては運営委員会の協議を参酌して」などの文言がないと、結局これはすべて役所の中だけで決められるという状況となってしまいます。せっきやく運営協議会がございますのでその立ち位置をもっと明確にすることが必要であると思います。、要項や要領について検討いただけると良いと思いました。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>文言についてはいただいたご意見も踏まえまして整理をさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>(議長)</p>	<p>他にありますか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>では、続きまして、資料6「新たな板橋グリーンカレッジ大学院カリキュラム案の検討状況について」の説明を事務局からお願いします。</p> <p>それでは資料6をお手元にご用意いただければと思います。</p> <p>板橋グリーンカレッジ大学院のカリキュラムについて現カリキュラムにおける課題を踏まえまして、昨年12月に開催されました「令和6年度第2回グリーンカレッジ運営協議会」でご提案させていただいたところではございます、多世代化やDX化の推進状況等を踏まえ改めてご提案をさせていただければと思います。</p> <p>本日配付の資料6につきましては、令和6年度第2回運営協議会で配布いたしました資料6を基に作成したものでございます。</p> <p>まず項番1「現行のカリキュラム」について改めて確認をさせていただきたいと思えます。</p> <p>現状では「文化文学」「社会生活」「健康福祉」の3コースを設置しまして、各コース30名を定員として運営させていただいているところございます。</p> <p>年間13回の事業の中で、大学校よりさらに専門的な知識の習得を図るために、ゼミナール形式を導入した授業を行っております。</p> <p>また、グループまたは個人での研究活動や施設見学等のフィールドワークを行い、最終回には研究内容の成果を発表するという形式をとっているところございます。</p> <p>続きまして項番2「大学院の課題」につきましても、改めて確認をさせていただきたいと思いに思えます。課題の1点目といたしましては、構成員について、過去に大学院を修了したことのある受講生、いわゆるリピーターの方が多数を占めており、大学校卒業生からの進学割合が低いということが挙げられます。</p> <p>2点目といたしまして、令和6年度の大学校新入生から多世代化を図っておりますが、大学院については、移行期間として高齢者向けの旧カリキュラムで運営していることが挙げられます。</p> <p>3点目といたしまして、大学院終了後に学びの循環に結びついてないという点が課題となっているところございます。</p> <p>続きまして、2ページ目ございます。</p>

項番3「新カリキュラム(案)」についてです。こちらは今年度改めてご提案させていただき内容となっているところがございます。

項番2でご説明させていただきました「大学院の課題」を踏まえてカリキュラム案の見直しを図るものとなりまして、資料に記載の通り3点でございます。

まず1点目「定員の見直し」についてです。令和6年度にご提示させていただいた案といたしましては、「各コースの定員を30名から25名に変更し、講師が受講生一人一人に寄り添ったきめ細かな対応をしやすくする」というものでございました。

こちらにつきましては、改めて検討した結果、現状申し込み数は定員に満たないため、定員については現行通り30名とさせていただきたいと思っております。

2点目が、「コースの見直し」についてです。

令和6年度にご提示させていただいた案といたしましては、「大学校の科目を増やすことに伴い、コースも3から4コースに増設する、また、分野を固定せず、大学校の科目に合わせてコース内容を毎年編成する。」というものでした。

こちらにつきましては、改めて検討を進めさせていただいた結果、令和8年度の大学院のコース数につきましては現行通り3コースとさせていただきたいと思っております。

理由といたしましては、令和6年度の大学校新入生から、年齢要件を撤廃したものの、令和7年度現在、大学校の受講生の8割以上が60歳以上であり、多世代化の実現に向けては多く課題が残っております。

また、令和6年度から大学校を科目選択制に変更して科目数を増やしたものの、科目ごとの受講者数にばらつきが見られるというのが現状でございます。

そのため、まずは大学校の科目設定について検討し、大学校で若年層を取り込んだうえで、大学院のカリキュラムの変更を行う必要があるため、令和8年度の大学院のコースについては現行通り3コースとさせていただきたいと考えております。

3点目が「学習内容の見直し」についてです。

こちらについては変更なく、意見交換や発表会などの時間を増やし、学習の成果を発信する機会を設けることで講義の理解を深める。また、受講生自身で、大学院で学んだ研究内容の活用について考える時間を設ける。」とさせていただきたいと考えております。

資料6の説明については以上とさせていただきます。

(議長)

資料6の説明が終わりました。ご意見、ご質問のある方はご発言ください。

よろしいでしょうか。

(事務局)

続きまして、協議事項の説明を事務局からお願いいたします。

それでは資料7をご覧くださいと思います。

「令和8年度板橋グリーンカレッジ大学校カリキュラム案」でございます。

上段に「令和8年度のカリキュラム案」を、下段に参考資料として「令和7年度のカリキュラム」を掲載させていただいております。

はじめに、上段左側の令和8年度1年生のカリキュラム案からご説明をさせていただきたいと思っております。

1年生は、年間23科目から18科目を選択し、各科目は1回完結の講座となっております。

また、各科目を6つのジャンルに分類いたしまして2年生への進学につながるような科目設定を行っております。

網掛けの科目につきましては「板橋学」として分類される科目で、板橋に関わる内容の講座や、区の施設を活用しての実施するものとなっております。

下線を付した、⑮「デザイン」⑰「ジェンダー」⑳「IT」㉑「スポーツ」の4科目につきましては、令和8年度に新設を予定している科目となっております。

下段左側に記載の令和7年度の1年生の科目のうち、下線を付した4科目につきましては、令和8年度は再編させていただきたいというふうに思います。

⑮「建築学」は、より広義な科目設定に改め、「デザイン」に変更させていただきたいと思っております。

㉑「プログラミング」㉒「メディア論」につきましては、多世代化促進を狙った新たな科目として設定をいたしましたが、履修状況が思わしくなかったことを踏まえ、「IT」に変更させていただき、講義内容についても改めて検討させていただきたいと考えております。

続いて上段右側の令和8年度2年生のカリキュラム案をご覧ください。

2年生では、1年生で広く学んだ教養科目についてさらに深く学習をしていただきます。各科目は連続する3回講座となっております、年間18項目から6科目を選択し、計18回の講座を受講いただくこととなっております。

2年生につきましては1年生で人気の高い科目を中心に設定するとともに、18科目を「A文学・芸術」から「F情報・科学」まで6つのジャンルに分けております。

下線を付した④「音楽」⑫「建築学」⑬「社会」⑰「科学」⑱「メディア」の5科目につきましては、令和8年度に新設を予定している科目となります。この5科目につきましては、今年度の1年生で設定した科目でございます、2年生ではより専門的な内容での講義を予定しております。

下段右側の記載の令和7年度の2年生の科目のうち、下線を付した⑪「生活史」⑫「農業」⑯「プログラミング」⑰「統計学」⑱「スポーツ」5科目につきましては、先ほどご説明いたしました1年生と同様に、多世代化促進を狙った新たな科目として設定をさせていただきました。

しかしながら、科目の性質上、パソコンを使用する演習が中心となるため、現状では電源やインターネット環境の確保に課題が生じております。

これらの課題解消に向けて検討しまして、環境が整備でき次第、改めて科目設定をさせていただければと考えております。

説明は以上となります。ご意見をよろしくお願いたします。

(議長)

ありがとうございます。協議事項の説明が終わりました。ご意見、ご質問ある方はご発言ください。

(委員)

ご説明ありがとうございました。

質問になるんですけれども、例えば「若年層をターゲットにした科目としてこれがある」だったり、或いはそういうのは想定せず、幅広く対象になるだろうというような形で設定されたのか。この科目設定に何か方針とかお考えがあれば、お伺いできたらなと思うんですが、いかがでしょうか。

<p>(事務局)</p> <p>(議長)</p>	<p>大学1年生に関しても引き続き多世代化を考えており、「IT」や「科学」、「スポーツ」等、上の世代の方だけじゃなくて、若い方も取り組みやすいように想定しながら、引き続き科目設定していきたいと考えています。</p> <p>それでは協議事項についてはこれで承認とさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>それでは本日の協議会は以上で終了とさせていただきます。</p>
--------------------------	--